誠之館同窓会ＨＰ漢字文化漢学講座論語第二回

**はく、「びてにをふ、ばしからずや。りよりたる、しからずや。らずしてらず、ならずや」、と。　　　　【】**

**子曰、學而時習レ之、不二亦説一乎。有レ朋自二遠方一來。不二亦樂一乎。人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎。**

**語の説明をすると**

○　子曰はくとは、論語では、孔子先生が言われた、の意。かつては、のたまはくと敬語で読むことが多かった。

○　学ぶとは、ぶとも読み、周りの大人や手本となる立派な人をまねたり或は書を読み自分で試し自分のものとしたり、更には目的・問題意識を持ち試行錯誤を繰り返しながらもよりよい生き方考え方を自ら覚るなどして、自分を高め悟り日常に活かしていくこと。いずれにしても、自ら、というキーワードが隠れている。人にさせられることではなく、力づくでさせられることでもない。

○　時とは、たびたび、反復或いは機会あるたびにの意。

○　習うとは、ひな鳥が巣を離れ自分の羽で自ら飛ぶことを称す。身を通して会得すること。

○　説ぶとは、ぶと同じで心中にうれしく思うこと。

○　朋とは、師を同じくする同門の友とし、志を同じくするのを友とする、という説もある。が、いわゆる朋友とし、志を同じくする同学の友人と解す。

○　楽しいとは、自分一人の心中にうれしく思う悦ぶと同じくぶことだが、悦びが外にでて容貌に現れるのをいう。

○　学而とは、論語約五百章句を二十篇に分けた一篇名。

**現代語訳をすると**

先生が言われた、「学んで反復、或いは機会あるたびに復習して理解しできるようになることは、うれしいことではないか。

志を同じくする同学の友人が遠くからはるばるやって来て語り合いお互い磨き合い問題解決していけるのは、なんと楽しいことではないか。

世間の人が自分の真価を分かってくれなくても不平不満をもたない、なんと君子ではないか。」と。

**この章句で学びたい三つの意味**

この章句は、論語の首めの章句で、三つの意味があると考えます。

一つ目。学ぶということは、言葉だけの「わかる」に止まるのではなく、自らの身を通して「できる」ようになることが大切だということです。ひな鳥は、最初は無償の愛情もった親鳥が運んでくるえさを順番に口に入れてもらい成長していきます。やがて、その発達段階がくると巣から飛び立ち二度とそこに帰ることなく、親鳥が飛んでいた姿をまねて飛び立ちます。が、なかなかうまくいきません。だから、繰り返し繰り返し自ら飛ぶ練習をして、自分で空を舞い、自分で餌を採り生きていけるように成長していきます。学ぶとは、このような身を以ての自立をもいうのではないでしょうか。

二つ目。一人で学ぶことが基本ではありますが、やはり、協同学習で共に学び合い、助け合い、刺激し合うことの大切さを説いています。他の人と共に発見したり、多様な考え方を出し合いできるようになることで達成感を分かち合うことは、幾重もの楽しさにつながります。現在の学校教育では、この協同学習も重視しています。ちなみに米国心理学者デシは、内発的動機付け三要素を人間関係、自己決定・選択等の自立性、小さな達成感の連続などの有能感としています。

三つ目。自学自習で或いは協同学習で学び、徳や才能も伸ばしても、誰にも認められず登用もされなくてもいきどおらず、刻苦勉励して天命を俟つのが君子だと説いています。孔子は、このような境遇になったとき、

「をみずをめず、～をるはそれか」（憲問）と天を信じて生涯学問の志を動かすことなく学び続けた人です。『中庸』をつくったは、天道の誠と人道の誠の聖人とを並び立つものとして孔子を至聖の人と位置付けています。

**学は通のためにあらざるなり**

要するに、登用されようがされまいが徳や才能等を磨き自分を高め、私利私欲無い自己実現することで家族や社会への貢献の大切さを説いています。自分の夢実現の職業を選択するとき、社会のどの分野を担当しどんな貢献するのかをしっかり認識しておきたいものです。そのようにしていると、天は見抜くはずだとしています。は、にの礼で迎えられのような活躍をしました。ＪＡＬを再建された稲盛和夫さんは学ぶことと利他主義を説かれています。

まずは、言葉などを記憶するだけの学びから、身を通したできる学びの悦び、ダイバーシティーの中でよりよい解を見つけ出す学びの楽しさ、それらを自分にも相手にも社会にもウインとする三方よしの学びの歓びを知り、生涯学び続け、一隅に一燈を灯していきたいものです。

* このシリーズ講座の主な参考文献を今回記しておきます。

「藩校編論語テキスト」（漢字文化振興協会）を中心に、

「新釈漢文大系「論語」」（明治書院、吉田賢抗著）、「渋沢栄一述論語講義」（明徳出版社、渋沢栄一著）、「山田方谷全集」（山田方谷全集刊行會、山田準編集）、「佐藤一斎全集」（（明徳出版社、岡田武彦監修）、「論語・易経・伝習録・孟子・大学・中庸に生き方を学ぶ」（廣文館・南南社　池田弘満著）